

パネルディスカッション その2

これからのロータリーは如何にあるべきか



パネリスト	田村 康雄(鯖江R. C)	コーディネーター	伊与 曉洋 (鯖江北R. C)
	宮本 喜光(武生府中R. C)	ゼネラルリーダー	宮崎 茂和
	清水 慶造(福井R. C)	パストガバナー	(福井R. C)

伊与氏 ただいまご紹介のありましたホストクラブの伊与と申します。座ってさせていただきます。この本質的なテーマ、なぜいまこのテーマかということは、我々共通認識として持っていると思います。しかしこれを限られた時間でどこまで掘り下げることができるかなあと思っておるわけでございます。が一生懸命取り組んでまいりますので、なにとぞ皆様よろしくお願い申し上げます。宮崎先生どうぞよろしく申し上げます。

パネラーのご紹介を申し上げます。宮本さん、武生府中ロータリークラブ会長様でございます。清水さん、福井ロータリークラブのロータリー情報委員長さんを務めてらっしゃいます。それから田村さん鯖江ロータリークラブのローターアクト委員会を務めてらっしゃいます。どこまでこの問題を掘り下げていくことができるかということで、私たち北ロータリークラブのほうでは、4つの小さな設問を設けました。それに基づいてパネラーの方々に3分ずつ話を伺い、そしてその

中から少しでも明日に結びつくようなヒントが見つかることができれば、これはおおいにIMの成果じゃないかと、このように考えております。その設問をまず皆様に申し上げます。まず一番として会員増強の際などに皆様はロータリークラブについて説明をされると思いますが、ロータリークラブを説明するときあなたならどのように言われますか。これは岡村ガバナーもマンスリーレターにこういったことを書かれていたと思います。その次は、問いの2番といたしまして、今言った一番の理想論といいますが、それに比べて現在のロータリーの状況はいかがですか、問題点はなんでしょうかと、こういった問いかけでございます。そして問いの3、近年の著しい会員数の減少、この原因についてはそれぞれどういうふうにお考えですかという問いかけでございます。それから最後にそういったことを踏まえましてどういうふう、なにをどうしていったらこれからロータリーというものが、明るい未来が開けてきますかと、こういったことをお伺いしよ

うと考えておるわけでございます。パネラーも本音のトークで、ボトムアップで、下から上に、ひとつ忌憚ないご発表をよろしくお願いを申し上げます。

それでは問いの1番につきまして、田村さんひとつよろしくお願いを申し上げます。

田村氏 鯖江ロータリークラブの田村康夫です。どうぞよろしくお願いたします。42歳で、ロータリークラブに入りまして7年目を迎えております。会員増強の目標にロータリーをどう説明するかという大変むずかしいのですが、今年度には入りまして7月に鯖江ロータリークラブとして初めての女性会員に入会していただきまして、そのスポンサーを初めてさせていただいたわけですが、入会にあたっての説明は少しでした。一般の方々からロータリークラブってなんですかとはよく聞かれます。さきほども鯖江文化センターの事務局の人に「ロータリークラブってなんやの」というふうに言われました。私が説明させていただいてるのは、ロータリーの基本的な経緯を説明をさせていただいております。百年近く前にアメリカでできました。そして世界で最初の奉仕団体であるということ。一業種一人、まあ同業者がいないのでわだかまりがなく、地域で大変すばらしい方々が集まっていると。

なかなか時間とお金もいりますので、なかなか入れないクラブと私はそういうふうに認識していました。ただ、私はローターアクトの出身でありまして、20代のころローターアクトで一生懸命活動をしておりました。そのローターアクトの活動の中では、20代のころロタリアンと一緒に活動をしておりますと、ロータリーってすごいなあって、ものすごいあこがれと、本当に尊敬がありました。それで現在私はロータリアンをさせていただいております。そういった気持ちを伝えられたらなっているふうに思っております。

伊与氏 ありがとうございます。同じ質問ですが宮本さんひとつよろしくお願いたします。

宮本氏 府中ロータリークラブの宮本でございます。時間の関係もございまして、後先は省略して中身だけ話させていただきます。さっき田村さんもおっしゃいましたように、どういうふうに説明するかといいますと、やはりロータリーというのは百年の歴史のある世界的な奉仕団体でありまして、また会員の資格としては、地域のあらゆる職種の代表的な社会人の中から全会員の賛同を得た上で会員として認められている奉仕団体ですと言っていますが、そのときに非常に



パネリスト 田村 康夫(鯖江R.C) 宮本 喜光(武生府中R.C) 清水 慶造(福井R.C)

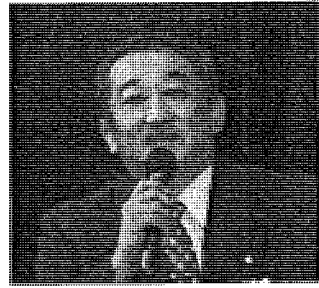
ありましたし、「聞いたことはあるけど、何をしているかは知りません」というふうなところもございました。まあそんなところからですね、語りがはじまりまして、おかげさまでいろんな人と出会いができました。でも、そのときにですね、きっちりとロータリークラブの目的をですね明確に伝えなければいけないいうふうに私も思いまして、はじめてっていか再度勉強させていただきまして、ロータリークラブというのはですね世界で最も古い奉仕団体でありまして、奉仕をする団体ではなく、奉仕をする人々が集まっている集団だということ。また、奉仕の道にですね情熱を燃やす方々を育てるクラブであるというふうなひとつの目的、集団の目的をですね、はっきりと明確にお伝えしたような次第でございます。そして私がいつも新入会員のインフォメーションで申し上げるんですけども、いわゆる使うもの、使う人の身になってものを作る。または買う人の身になって売る。そして、受ける人の身になってサービスをするというふうなことをですね、申し上げて我々は、後ほど出ますけども、一業種一人の職業に励んでいるわけですけども、いわゆる他人を思いやることを持っているような活動をしている。思いやりの心、これがロータリーのころではないかなと。これがロータリー精神でありますと明確にお伝えしているような方々とお話した結果、おかげさまであじさいクラブ50名のメンバー、すばらしいメンバーがですね、集まったわけでございます。そんなことで、会員増強っていいですか、ロータリーというものを語るひとつの糧にしたわけでございます。

伊与氏 はい。ありがとうございます。全く未知の人というかそういう方々に説明するというのはなかなかわかってもらえないという点もございまして。その中でやはり、人に応じて、相手に通じる言葉で相手を説得するということ、本当にご自分がロータリアンということをよく体の中に染み込ませているからこそそういった言葉が出てくるのではないかと思います。ありがとうございます。その次の問いは、いまほど言われたロータリーとはこういうものだ、それぞれのお立場から、おっしゃって下さい。ご自分のロータリー

残念なのは各職種、一業種一人しか会員になれないんだということ、今まではセールスポイントにしておりましたんですけどもそれを言われたいのが非常に残念だなという感じがしております。そして、そういうことで入会した以上、全世界から飢餓と貧困をなくして各国間の偏見や差別を無くすために、次世代の青少年の交流を計り、世界平和のために、また民族の違いを超えて、慈愛の輪を広げるために奉仕の精神で結ばれている奉仕団体です。だからあなたも参加しませんかというふうにお勧めするつもりであります。どうか入ってくださいというつもりはありません。

伊与氏 まあ最後のところはあとからご説明があるかと思っておりますので、一応ここでは止めさせていただきます。また同じような質問ですが、清水さん、いかがですか。

清水氏 IM というのは、会員相互の親睦と面識を広め、ロータリー情報を伝えるというのが目的でございます。非常に堅い話になるかもしれませんが、ご了承願いたいと思います。ご案内のとおり前年度に福井クラブがスポンサーをいたしまして、新クラブ、あじさいクラブが誕生できました。これは前年度の宇野会長、岩下幹事、役員、そして福井ロータリー会員全員の強力なバックアップがあって、スポンサーができたわけでございます。たまたま私がいろんな関係で、実行委員長を押し付けられまして、はじめは大変だなーと思いつつですね、ある時期に開き直りまして、させていただけるというふうなことで、全面的に取り組んだわけでございます。そのときにですね、いろいろな経験をさせていただきました。先ずはですね、多くの会員からリストアップがありまして、「こういうリストがあるから言ってこいよ」ということで、私だけではございません、会員皆様がですね足を運んで、いろんな方に面談をさせていただきました。そのときにですね、まずは開口一番ロータリーとかライオンズとかいう奉仕団体を御存知ですかというところからはじまりましたね。そうしますと、「なんか奉仕をする団体やのー」という感じで、一部お分かりなところも



田村氏

ということに限らずにロータリーの全般的なものでも結構でございます。なにかひとことづつお願い申し上げます。田村さんいかがですか。

田村氏 ロータリーの問題点というと大変難しいんですけども、私からこれだっというものはなかなか言いにくいのですが、自分の思うことを言わせていただきます。

ロータリークラブは、本当に厳粛でなかなか入会ができないクラブだというふうに認識しております。そういった中で現在、質の問題もよく言われますし、また会員増強も言われますが、規制緩和的な部分が見えてきました。大変厳粛という中から、厳しいっていう中から柔らかくなってきたなあというのがひとつの思いです。

もうひとつはそれぞれ本当に地域で業種で本当トップの方ばかりですので、その人たちが集まっている中で、やっぱり思いやりっていうか、同じ目線で活動していくことが、大変大事になってきているのではないかなということです。

第三に、ローターアクトと比較してロータリーには委員会がたくさんございますが、委員会があんまり開かれてないなあと思います。ひとつの行事をするときに本当にローターアクトの人たちはなんべんもなんべんも会合を重ねたりとかしています。そういった意味で、やっぱりそういった細かいのがないなあって思います。

伊与氏 ありがとうございます。ロータリーの前身であるローターアクトでの、長年経験と比較してこうだというようなお話であったかと思えます。それでは宮本さん、同じようなことはいかがですか。

宮本氏 感じでものをいうようで失礼しますけども、それ以上のことは頭はないもんですから、自分の思っていることだけ言わせていただきます。一般的に私が思いますのは、非常に各委員会の仕事が次から次へと多いように思うんですね。仕事が多すぎるのではないかと、そのために総花的にいろいろな事業をこなさないかんもんですから、どうしても事務的になりやすいような感じを持っています。それで各委員長さんはそうではないと思うんですけども、なかなか結果がでてこないというような感じがいたします。それが、どうしても消極的な気分にしてしまっていて、汗を流す奉仕もまた消極的になってきたように思います。ということは非常に、私が当初入ったときから比べましても、気持ちの面でだんだん薄れてきたような感じを持っております。私だけの個人的な感覚かもしれませんが、そのところが非常に問題だなと思っております。ほかにも問題はたくさんありますけども。

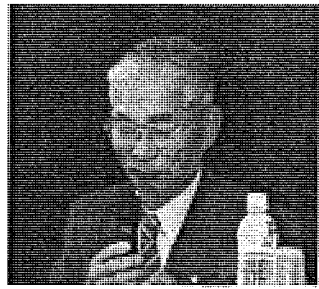
伊与氏 はい。ありがとうございました。まだ問いが続きますので、まだ言い足りないと思いましたら次のところでおっしゃってくだされば結構です。それでは清水さんいかがでしょうか。

清水氏 時代と環境によってですね、いろんなものが変わってきました。また変わっていくものが多々あると思います。その中で1つ2ついわせて頂きます。大きく分けて RI また地区クラブについてですね。分けて言いますと、RI ではないまでも出てきたけども一業種一会員という制度がですね緩和されたこと、これは問題ではなからうかと思うんです。これは金看板でございますので、他の奉仕団体ではこの職業奉仕という一業種一人というふうな会員制が絶対ないわけなんです。この特色の緩和はある意味ではいいんでしょうけども、私はやはりこれはいままでの制度がいいんじゃないかなあと、私も同感でございます。なぜかといいますと、さきほど言いましたけども新クラブの設立に関してお話したときに、やっぱり金看板が先にでるんですよね。そういうながらですね、実は少し緩和されましてというふうな話を多々いたしました。まあ、それはそ

ばルールを守らないということではなからうかと思うんです。もっとどうして例会出席をやかましく言わないのか、ただパーセントや数字でものを言ってるのではないので、もう少し新会員にもお伝えいただきたい。われわれはもっと先輩ロータリアンとして新会員に、その旨伝えなければただ出席をやかましく、数字でやかましく言うという誤解も生んでいるのではなからうかと思うところがございます。

伊与氏 たくさん内容豊富にご指摘をいただいたと思います。RI ということに始まって、2650 地区の事業としてはどうだとか、それから今の各クラブの実情にはこういうところが問題があるんじゃないかと言われました。今一生懸命ゼネラルリーダーが後から回答をしようということで原稿を書いています。それを後からお聞きするというで一応私の任とさせていただきますと思います。問いの3はいろいろもう話は出ていますが、会員減少、特に2650地区はひと頃に比べて、もう1000人以上減っちゃったということが言われております。それが本日のこういったテーマにも結びついているわけでございますが、そういったことに田村さん非常に若い世代としては如何お考えでしょうか。

田村氏 もちろん当たり前のようですが、現在の経済状況から減少していくというのはもちろんあると思いますが、ただ発足当時のポール・ハリスが作った状況から比べるとその比ではないというふうに感じます。ですから今後のロータリーというのは本当のロータリアンになっていくのではないかなというふうに思います。私の鯖江ロータリークラブのことを一言言わせていただきます。ここに品川秋則会員増強委員長がおられます。鯖江ロータリークラブは5.6年前まで70名を越えておりました。今年度は、48名でスタートいたしました。会員増強、会員増強とよくいわれます。品川会員増強委員長が今年はやるぞと、15名の目標を作られまして、常に入会申込書を手から離さないという状況のなかでスタートいたしました。7月に先ほど言いましたが、初めて女性会員の一人に入会してい



宮本氏

いただきました。続けてお二人の女性会員が入会されいまは3名です。そして三ヶ月過ぎて7名の増員をして、今55名の会員ということです。15名も夢ではないなと思っております。そうした中で本当にすごい地位の方が入会していただいて、次の例会からちゃんと親睦のたすきをつけていただいて、受付で待っていただき、私たちに週報を渡していただけるのです。大変頭が下がる思いです。こういう状況の中でもまだまだたくさんの気持ちを持った方がおられるんだというふうに強く感じました。これはやる気なのかなと思います。品川委員長に引っ張られてクラブ員みんながだれかいなか目と目を光らせている状況です。

伊与氏 ありがとうございます。やる気があればなんでも克服ができると、さすがに若いジェネレーションだけありまして非常に熱気のコもった熱弁を振っていただきましてありがたく思います。それから、苦しいときほど本当の味方だと。これもよく若い人がそういったことを言われるなあと、私も感心して聞いたわけです。本当にみんなそういった連携といいますか、お互いに手を握り締めてというような気持ちがあれば、数さえあればいいということではなしに、ますますそういった質といいますか、ローアリアンのつながりというのが生まれてくるのではないかとお聞きしたわけでございます。同じ質問で宮本さんいかがでございますか。

宮本氏 一言でいえば、ロータリーに魅力がなくなったということなんです。魅力がないというのにはいろいろな要素がございますんですけども、一番大きな原因というのは、やはり規則を守る気質の薄くなったことだろうと思います。それともうひとつは、社会的

にはロータリーの姿が非常に見えにくくなったと同時に会員にもロータリーの本質がわかりにくい面が非常にたくさん出てきて、理解できないままにロータリーに通っているという、そのことがいろいろとロータリー活動に消極的になった。本質を知らないそのためではないかと思えます。

伊与氏 さきほどもちらっと触れられましたけど、量より質だと。さきほど問1のときにも言われました。結局魅力がなくなっているから会員がなかなか入ってこないんだと。魅力という言葉は非常に言うは易く、なんだといわれればさっぱりわからない。その魅力を作るために如何にロータリアンとしてがんばろうかと。ま、こういうことが今日のテーマでございますので、もうひとつ問いの4番をひとつよろしく願います。

清水氏 宮本さんと同じになってしまうのですが、強調する意味でもうひとつ言わせていただきます。私もロータリーに魅力が薄れてから会員減があるのではなからうかと思えます。この原因はいまもおっしゃってましたけども、やっぱりルールが緩和されているのが最大の原因じゃなからうかなというふうにも思います。ルールが薄れて特徴がなくなってきたということをお願いなんです。年度、年度新ガバナーの目標の中には会員増強が入ってます。毎年聞きますと、また言ってるまた言ってるというような感じですね。大変失礼な言い方ではございますけども、思っているところでございます。やはりこれは永遠のテーマでございます。会員増強がなければ衰退してしまう。私はいつかどこかで言ったんですけども、あるクラブでうちの会員は増やさなくていいんだというふうな話があったんですね。それはそれでそういう考え方もあろうかと思えますが、一人も増やさなければ自宅のクラブは平均年齢一歳づつ上がりますよと。一歳づつ上がってもそれで問題ないんですけども、一歳あがれば、2歳あがればだんだんみんな老化していくのでございまして、活動が鈍ります、というようなことを申し上げたことがあります。さきほどからすぐ拡大の話になりまんですけども、うちのクラブでもですね拡大をする、会員

それからもうひとつ、美しい人を推薦してください。これは、女性会員がはいられましたので、女性会員が美しいのは大変結構なんですけども、そういう意味でなくてですね、心の美しい人を推薦してください。もうひとつは仕事に忙しい方を推薦してください。まあ、言うは易しでございますけども、推薦はみなさん一人づつが一人がいいんです。何名も推薦はいりません。一人が一人推薦してください。これさえやれば会員増強は方々歳になるわけでございます。もうひとつ付け加えて言わせていただきますと、大日方ガバナーの年度から退会防止というのが、言葉に出てきたわけでございますけども、これはそのときから私は反対いたしました。退会防止なんて組織にですね、委員会があるなんておかしいのではないかとということです。ちょっとさきほどの問題にもどるかもしれませんが、退会防止なんていう言葉は消したほうがいいと思うんですよ。それよりももっともって純増をしつかりとやればいいんじゃないかなというふうに思います。

伊与氏 はい。ありがとうございます。本当にいろんなご指摘、さすがにキャリアといいますか、福井ロータリークラブという一番の歴史あるクラブの方だなあと感心して聞いているわけでございます。その次にいきましょう。4番目として鯖江クラブは問題がなさそうですね。ロータリークラブは少し下降線を辿っている。これをどうしたら再び上昇曲線に戻せるかというようなことで、ひとつ若い人のアイデアを出してください。お願いします。

田村氏 どう克服していくかということで、今後の展望ということですが、私は数というのは、さきほど宮本さんから強い発言がありましたが、それほど数を追いつめる必要はないと思うんです。大変素晴らしい活動をロータリーはしているとは思いますが。まだまだ勉強不足でロータリーのことを本当にはわからないのですが、昨日、うちの鯖江ロータリーの例会がありました。米山月間ということで米山奨学生の卓話がありました。ハン・リナさんという方の卓話をお聞きしました。そのお話を聞いてまして、「あーいいお世話

増強をするためのひとつの方策といいますか、拡大をしようということですね。新クラブを私達はスポンサーをしたわけでございますけども、それをするとですね自クラブは減るんじゃないかならうか、増えはせず減るんじゃないかならうかというところまで思いました。私はたまたまやりましようと言ったときにですね、自クラブも絶対増えますよと言ったところ。結果論ですけども、新クラブ誕生をスポンサーいたしました。自クラブも純増10名なにかががありました。それくらいですね、やはりみなさんの意気込みが変わってくるわけですね。それはすごくよかったなというふうに私も思うわけでございます。会員増強というのは非常に難しいんですね。各クラブでおそらく、今田村君がおっしゃいましたけど15名増なんてとても言えないと思います。けれどもですね、会員増強は難しいんですけども、それぞれのクラブではですね、「うちのクラブはだいたい50名ぐらいが非常に仲良しがいいんじゃないか」とか「うちのクラブは70名」「うちのクラブは100名ぐらい」というような感じがあります。やはりなんとなくキャバが決まってるわけですね。そういうことで、5.6名増やして、2.3名減ってまあまあという感じが常にあるんじゃないかならうかと思うんですね。そこです。70名のクラブが100名にしようという至難の業でございます。でも、新しい30名のクラブを作ろうと思ったら出来るんですね。それくらいおもしろいもので、結果論ではございますけどもそういう意味で、新クラブスポンサーになるのもすばらしいなあと思えます。これはみなさんご案内のとおりでございますけども、会員増強というのは内部拡大、新クラブ結成は外部拡大というふうに思います。これを含めて会員増強ということになるのではないだろうかと思えます。敦賀ロータリークラブさんも今新クラブの結成にこぎつけておられて、スポンサーになられます。今年の年末に発会式をされてですね、来年の新クラブ結成のため、今30何名を集めてですね着々と結果を作られていると思います。もうひとつは私流の会員の募集のポイントが、3つあります。一つは、若い人を推薦してください。自分より若い人を推薦して下さい。



清水氏

をしているなあ」と私は感動したんです。米山は大事ななあと思いました。米山自体私は本当にまだまだわからないのですが、米山の寄付というのも大事ななあというふうに思いました。それとですね、目に見えるものと見えないものというんな奉仕があると思います。やっぱり地域にもっと交わっていくのが大変大事かなというふうに思います。私がひとつお願いしたいのは、今私はローターアクトの地区のほうに出向させていただいております。福井ではローターアクトが7クラブございます。インターアクトが3つだと思んですが、それぞれロータリークラブが提唱して彼らのいろいろの指導とかやっているという段階で、やっぱりローターアクト、インターアクトができたのはこれからの時代を担うのは若い青少年であるという考え方から発足したわけでありまして、本当に生身の若い彼らを、育てていかなきゃいけない。私はまだまだ若いつもりでいるんですが、本当にまだまだ、そういうローターアクト、インターアクトに対する認識がものすごく低いと思えます。RIの定款がわかりまして、提唱、未提唱にかかわらず、ローターアクトの例会出席がメイクアップになるんですよ。それで7クラブ夜間7時半からだいたいやっております。ローターアクトの活動の行事というのもたくさんありまして、地域に交わった形でたくさん素晴らしい活動をされているんです。そういった中で、ぜひともたくさんの方のロータリアンの皆様方にご理解をいただき、またご参加いただいて、ご指導をいただけたら、大変うれしくすばらしいなあというふうに思います。私は青少年育成というのを、今力をいれておりますが、まだまだ認識が薄いかなというふうに思っておりますので、ぜひともそっちのほうを力を入れていただきたいというふうに思っています。

伊与氏 はい。ありがとうございました。ローターアクトへ出席すればメイクアップになるということです。それからもうひとつは、ローターアクトは定年制ですので30歳ということでございますが、30過ぎたらロータリーのほうへお迎えをする、これは経済的な理由があって、あんまり高ければいろいろ負担がかかると思うんですが、それもなにかいい方策があるのではないかと、あとからまたゼネラルリーダーにそういったこともお教えいただきたいと思います。宮本さん同様の質問ですが、どうしたらいいとお思いですか。

宮本氏 そのまえにちょっと言い訳ではございませんけども、さっきから私は会員増強について少し消極的な、悪い意見ばかり言っているように誤解を受けていると思うんですけど、私はそういうつもりではございません。会員増強に一番大きな実効をあげるの、あくまでもやはり会員増強委員長と会長が一生懸命になって努力する。このことが会員増強に繋がるのだと思います。要はなんの委員会でも同じでございますけども、委員長、その長になった人の熱意如何でそのクラブがよくもなれば衰退もすると思います。私も会員増強です。数ももちろん大事でございます、質が大事か数が大事かというのは、非常にナンセンスな問題だと思うんです。質は当然いいものに決まっているんですね。数が増えたら質がわるくなると心配するのはおかしいと思えます。さきの論理とちょっと矛盾しているように思われるかもしれませんが、私のこころの中ではみなつながっておりますので、何も矛盾はしていないつもりなのです。とにかくこれから会員増強委員長と一緒に私も全ての精力を尽くしてやるつもりです。

ここに府中ロータリーの会員さんもおられますのでひとつご協力お願いいたします。

頭を下げてまで入ってくださいと頼まないといいたのは、自分の心の中でのことでございまして、会員増強にいくときは、やはりお願いしますというのは、商売と同じですけど、まあ共通しているものがあると思います。ただ形の上ではあくまでも頭を下げてお願いするというのは大切だと思います。しかし自分の心

の中までも節を曲げてまで、頭を下げるということは、私はロータリーの誇りが許さないとしますので、それはいけないと思うんです。

このところが私は大事だと思うんですけど、今後の展望が開けるためには具体的にどうしたら良いかという、せつかく入ってもらった虎の子の新入会員が辞めていかないためには、厳しい規則の実践とロータリー精神の研修をする期間と申しますか、それ専門の人選をしてその任にあたる人を配置すべきではないでしょうか。せつかく入ってもらった人を教育する、教育するというのは非常におこがましいんですけど、最近質のことを言われますけども、それぞれ良質の岩石ばかりで、磨けば素晴らしい輝きを持った人たちばかりだと思っております。しかし、せつかくの磨けば輝く素材に対して私たちが事後研修といいますか、事後のフォローが非常にまずいんだらうと思います。そのためにこの会議も含めましてロータリーの理念を再確認することが大切だと思います。そこからロータリーの今後の展望が開けるのではないのでしょうか。終わります。

伊与氏 はい。ありがとうございました。宮本さんはご覧のようにもう人格者そのものでございます。結局わたし達が言ってほしいこと、原点に戻ってほしいこと、ロータリーはあくまでもアイサーブだということ、こういったことを一番厳しく考えてらっしゃる方でないかと思えます。この前打ち合わせ会を持ちましたときにも、そういったことを私は感じた次第でございます。けして誤解をしているわけではなく、両立だというのが2650地区のこのあいだのアンケートなんかちょっと見ましたけど、やはり50%近くの人はそういったことを考えていらっしゃるようでございます。ま、参考までに。それでは清水さんもさきほどからいろいろご指摘をいただいておりますが、なにかもうひとつ締めくくりとしてひとつお願いいたします。

清水氏 みなさんロータリーというのは好きですか。きれいな方おられますか。おられませんね。おられますとちょっと話がかわってくるわけで、私のいいことも変わってくるわけでございますけども、今日こ

こに出席のみなさまは是非ですね欠席のみなさまに伝えてほしいんです。今日のこういうふうなディスカッションのことを、伝えて聞かせてほしいんです。これが一番先決でないかなあと思うわけでございます。私はロータリーが好きです。みなさんよりもちょっと少しだけ多めに好きかもしれません。ということですね、みなさんももっとももっともうちょっと、ロータリーを今以上に好きになってほしいなあ、これが一番いいんじゃないだらうかとふうに思います。これを難しくいいますと、ロータリーの理解を含めですね、さらに発展するためには、会員のあなたがですねロータリー情報をきちんと身につけていただきたい。整理して言いますとこういうふうになるのではなからうかというふうに思います。ロータリーも先ほどから出ています親睦がいかに大切かということもわかります。親睦はただ飲み食いをして、楽しい楽しいということだけではないと思うんです。やはり心がひとつになったものが、ひとつの奉仕活動ができるという意味で親睦を前に出しているわけでございますので、それがややもすると、取り違えられることが無きにしても非ずだというふうにも思います。それから、たまたま私今年度クラブの情報委員長でございまして、そのように強く感じているわけでございますけど、やはりロータリー情報というのは一方通行ではいけませんけども、もっとももっとロータリーを知る情報を受け入れるということが大切だらうと思います。我々のクラブの会報ですね、それからガバナーが出しておられるガバナー月信、それからロータリーの友、まずはこれだけを全部目を通したらロータリー通になると思います。それくらいロータリー情報を受け入れてほしいなあ。こうすれば必ずやロータリーが好きになってきます。またもうひとついわせていただければ、ロータリー活動に、もっと積極的に参加してほしい。先ほど例会の出席だけを言いましたけれども、やはり今日のIMもそうでございますけども、ロータリーの行事にはなるべく参加をしていただく。そして会長、幹事がお勧めをして参加していただく。ここで何が生まれるかといいますと、やはり奉仕をした喜びが味わえると思うんです。我々も欠席をしたイベントというのはぜんぜんわかりません。

パネルディスカッション その2

なんかいいことをやったんだなあということだけで終わってると思うんです。やはり自分で汗を流しますと「やったー」「一人でやれないことがみんなしてやれた」というふうな喜びを感じるのがロータリーであるというふうに私は思っておるわけでございます。先ほども宮本さんもおっしゃいましたけども、ロータリーは理論と実践、ロータリー教育と奉仕活動だと思えます。この両輪の片方が欠けても、ロータリーの喜びというのはないというふうに思うわけでございます。ちなみに、ポール・ハリスが、7.80年前に「世界は絶えず変化しています。私たちはこの変化する世界とともに変わっていく心構えがなければなりません。ロータリー物語は繰り返し書き直しが必要であるでしょう。」というふうに言っておられるのを私は読みましたので、ちょっとご披露申し上げます。ロータリー会員が如何に多くなろうと、これがなくてはだめです。ロータリアンがもっと多くなるようにお願いしまして私のスピーチを終わらせていただきます。

伊与氏 ありがとうございました。大変示唆にとんだ貴重なお話をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。コーディネーターも少し付言させていただきます。「SOW THE SEEDS OF LOVE」という言葉を考えてみました。皆様がロータリークラブをよりラブしていただければ、それこそ今よりずっとロータリークラブというものが活力がでてくるのではないかと、少し駄洒落かもしれませんが思う次第でございます。まだまだ討議不足のところもございますが一応時間になりましたのでここで第2部を終わらせていただきたいと思います。ながらくご清聴ありがとうございました。